

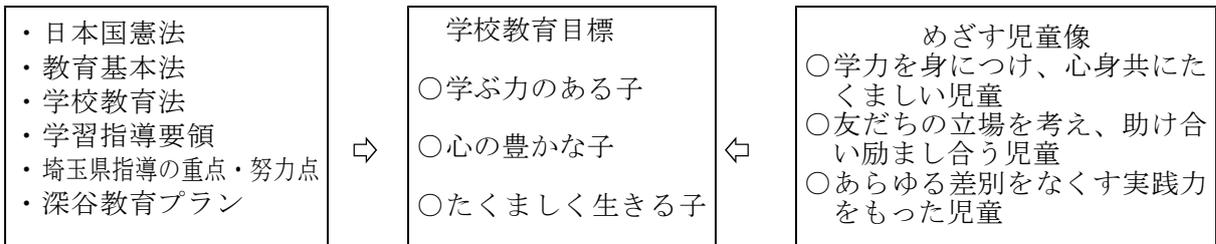
平成25年度校内研究計画

1 研究主題

学校・家庭・地域が一体となり、まごころと思いやりをはぐくむ人権教育の推進
—自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる子どもの育成を目指して—

2 研究主題設定の理由

(1) 学校教育目標との関わりから



(2) 児童の実態から

本校は、農村部にあり、核家族よりも3世代、4世代同居の大家族が多く、子ども達は素直で明るい。家庭も学校教育に比較的理解があり、PTA活動も盛んである。児童数が少ないため、子ども達の間関係はや固定的であるが、反面、保護者同士もお互いや子ども達の様子をよく知っているという特徴がある。登下校班、たてわり遊びや休み時間には、学年の枠を越えて仲良く遊んだり話したりする姿がよく見受けられる。しかし自主性に欠け、当番の仕事を積極的に行ったり、自分から進んで何かをしようという意欲が乏しい児童もいる。

「なかよしアンケート（2月）」では、「学校の生活は楽しい」と答えた児童が93%、「仲のよい友達はいますか」の問いに、98%が「はい」と答えており、ほとんどの児童は楽しく学校生活を送っていることがわかる。また、昨年の人権教育推進の結果、「持ち物がなくなったり壊れたりする」「失敗を友達に笑われる」「友達に悪口を言われる」等の項目が10%前後改善され、全体として落ち着いた生活が送れるようになり、児童同士の間関係も少しずつ良くなってきたことがわかる。反面、「いじめているのを止める」は3%減（78%）、「わけがあれば、いやがることをしてもよい」は全体の9%あり、理屈ではいけないとわかっているにもかかわらず、行動に結びついていない実態があり、「いじめは絶対に許されない」という指導を続けていく必要がある。

(3) 人権教育の重要性

自分の人権を守り他の人の人権を守ろうとする意識・意欲・態度を高めるには、人権が尊重される教育の場としての授業の充実を図る一方で、幼小中学校や地域・家庭と連携し、子ども達を取り巻く教育活動全体を通じて人権教育を推進していく必要がある。

3 研究の方向

(1) 人権感覚育成プログラムを活用・応用した授業を行い、児童の人権に関する知的理解と人権感覚を培う。

(2) 人権教育の視点をもって全教育活動を行い、児童の正しい判断力と実践力を育てる。

(3) 幼・小・中の連携を通して、明戸地区全体での人権意識や人権感覚の高揚を図る。

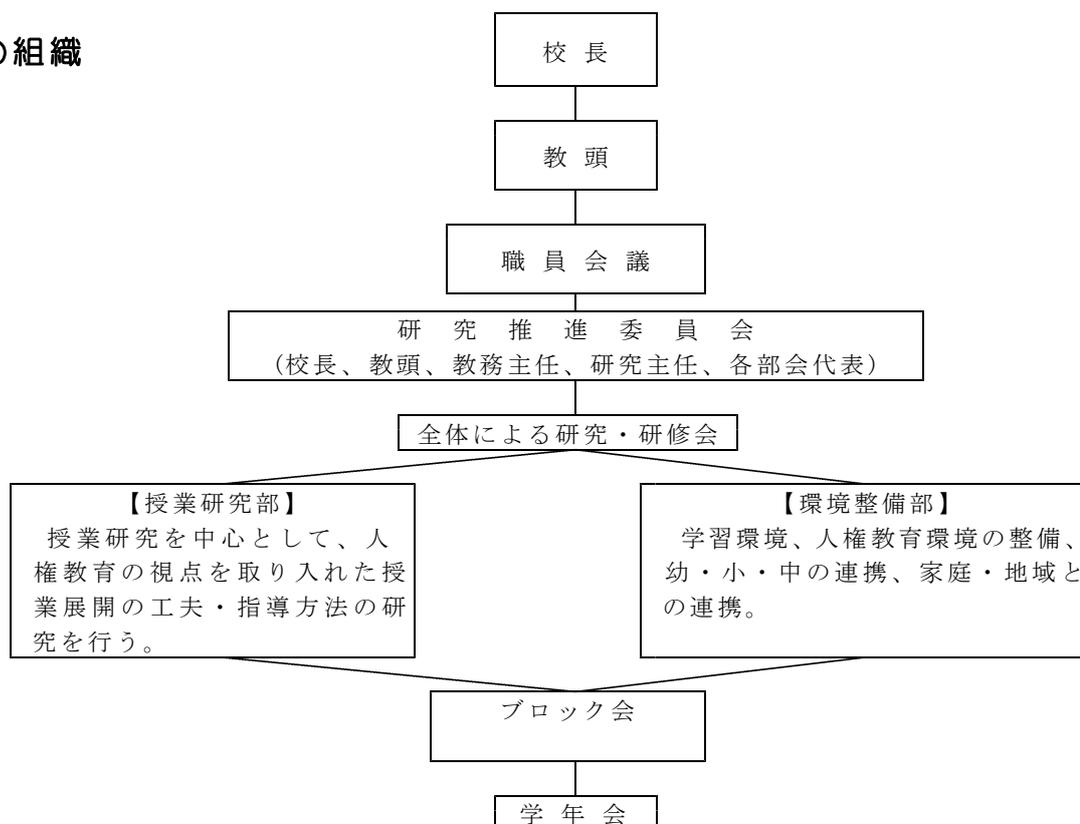
4 研究の仮説

- 学校・家庭・地域が一体となり、自他の大切さに気づかせ実践させることで、思いやりやまごころのある子どもを育てることができるであろう。

5 研究の手立て

- (1) 人権教育の視点を取り入れた教育活動を推進する。
- (2) 指導者を招聘して、合同の授業研究会・講演会を実施する。
- (3) 家庭・地域との連携を深める。
- (4) 児童の実態把握や成果の検証のためのアンケートを実施する。
- (5) 人権教育の年間指導計画を見直し、充実を図る。

6 研究の組織



部会名	主な研究内容
授業研究部	①人権教育の視点を取り入れた指導案作りと授業研究会の推進 ②効果的な学習教材の選定（体験活動・行事等） ③人権感覚育成プログラム活用の提案・実施 ④児童の発達段階を踏まえた指導方法の工夫
環境整備部	①人権教育に根ざした言語環境や学習環境の整備 ②幼・小・中、さらに家庭・地域との連携 ③あいさつ運動の推進（のぼり旗等の作成） ④児童の実態把握のためのアンケート調査の実施とその考察・検証